

若林敬子・轟海松編著 『中国人口問題の年譜と統計 1949～2012年』

著者	狩野 修二
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジア経済
巻	54
号	3
ページ	160-160
発行年	2013-09
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00006958

若林敬子・聶海松編著

『中国人口問題の年譜と統計

——1949～2012年——』

御茶の水書房 2012年 vi+302ページ

かのう しゅうじ
狩野修二

世界最大の人口を擁する中国にとって、経済の面でも社会の面でも人口問題は特に注目されるテーマのひとつである。1979年から人口増加抑制のために始められた「一人っ子政策」は中国の人口問題を語るうえで欠かせないことはいまさら言うまでもない。この政策により1981年には2.584だった合計特殊出生率が、2000年には1.71まで下がり、また人口の増加数も多少の増減はあるものの次第に少なくなってきた。このように人口抑制が目に見えて成果を上げている一方で、政策導入から30年余りが過ぎた現在、少子高齢化の急速な進展や、男児をより望むことによる出生性比の不均衡などの問題も顕在化し始めており、中国の人口政策は転換点にきているとも言える。

編著者のひとりであり、主著者である若林敬子氏は、1979年の中国初訪問時に、いままに開始されようとしている一人っ子政策に遭遇し、以来30年以上にわたり中国の人口について研究を行ってきた。本書は、1949年の建国時から転換期に差し掛かりつつある2012年現在までの中国人口政策・人口問題を綿密な情報収集および整理により総括した一覽性の高い資料集である。

本書の構成は、年譜、統計資料、用語等の解説、関連法律の和訳、関連機関リストの5部から構成されている。第I部の「人口政策・人口動態についての年譜——1949～2012年——」は、各年における人口政策の状況や法令の発布、人口センサスの実施状況およびその結果、また人口政策や人口問題に関してどのような議論があったかなどが記されている。単なる出来事の羅列ではなく、内容の概要やポイント、解説などが適宜記されているため理解がしやす

い。

第II部の「人口統計基本資料」は、統計資料等をもとに作成した図表で、「基本人口」「人口センサス」「歴史」「ピラミッド」「TFR（出生率）」「性比」「出生性比」「一人っ子率・証」「産児制限」「寿命・死因」「教育」「家族」「高齢化」「離婚・孤児」「就業人口」「都市・移動」「貧困・格差」「社会保障」「少数民族」「上海」「深圳・香港・台湾」「日中国際人口移動」「国連推計」の23項目からなり、138もの図表が掲載されている。「中国統計年鑑」や「人口普查（センサス）資料」といった代表的な統計資料だけでなく、そのほかの統計資料や年鑑、図書等、60を超える資料を利用し作成しているの、人口に関するデータを調べる際にはまずここをみると大体の情報は得られるであろう。

第III部の「人口・社会学関連の用語・概念・訳語の解説」は、たとえば「合計特殊出生率」といったような一般的な人口に関する用語の解説と「新世代農民工」や「計画出産条例」等、中国での人口政策、社会問題に関する用語の解説が記載されている。解説も、たとえば「一人っ子政策」の項では、その内容と変遷、背景、根拠・関連法、賞罰に関する図表等が載せられており、全体を一読することで中国の人口問題に対する理解を深められるであろう。一点残念なのは、掲載されている用語がどういった順番で配列されているのかわからないため、特定の用語を調べたいときには手間がかかる。

第IV部は「中国人口・計画出産法」等関連法規の和訳が掲載されている。一人っ子政策は1979年から実施されているが、その実行に関しては各省市が各地の実情に合わせて条例を制定し施行していた。国の法律としてこれを定めたものは2001年公布の「中国人口・計画出産法」である。第V部は、編著者がこれまで訪問した中国人口・社会学関連の研究機関および中国の主要な人口科学研究機関のリストである。この2つのリストで中国の主立った人口関連研究機関は網羅されているとあってよいだろう。

本書は、建国当初から現代までの中国の人口政策史・データを知ることのできる非常に有用な資料であり、中国の人口問題に関心のある読者に広く利用されることが期待される。

(アジア経済研究所図書館資料企画課)